

会 議 記 録

名 称	第2回 中央区子ども・子育て会議	
開催年月日・場所	平成26年1月28日(火) 18:30~20:45 中央区役所8階第一会議室	
出席者	委 員	西郷泰之(会長)、山本真実(職務代理者)、小森信政、埴佳生、佐久間貴子、村田美緒、鈴木和子、箕輪恵美、酒井寛昭、高橋真規子、鹿子木亨紀、大石俊美、鈴木英子、加藤恵子、薩埵稔、箱守由記、平林治樹、和田哲明、新治満
	区 側 出 席 者	福祉保健部子育て支援課長 福祉保健部子ども家庭支援センター所長 福祉保健部健康推進課長 教育委員会事務局庶務課長、学務課長、指導室長 福祉保健部子育て支援課子育て施策推進主査
配布資料	<p>資 料 1 中央区子ども・子育て支援新制度における利用希望把握調査調査結果【速報版】</p> <p>資 料 2 教育(幼稚園)・保育施設について</p> <p>資 料 3 地域子ども・子育て支援事業について</p> <p>資 料 4 子ども・子育て支援事業計画の記載事項(案)</p> <p>[国資料より]</p> <p>参考資料 1 利用者支援事業について</p> <p>参考資料 2 延長保育事業について</p> <p>参考資料 3 社会保障審議会児童部会 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会 報告書</p> <p>参考資料 4 地域子ども・子育て支援事業の主な検討課題と委員からのご意見への対応方針について</p> <p>参考資料 5 一時預かり事業について</p> <p>参考資料 6 病児保育事業について</p> <p>参考資料 7 妊婦健康診査について</p> <p>参考資料 8 地域型保育事業について</p> <p>参考資料 9 保育の必要性の認定について</p> <p>[当日配布資料一覧]</p> <p>資 料 1 中央区子ども・子育て支援新制度における利用希望把握調査調査結果【速報版】 P36~37 問23-1、問23-2 グラフ差し替え</p> <p>資 料 2 追加資料 保育施設の現状・区立幼稚園の現状・出生数の推移</p> <p>参考資料 8 差し替え 地域型保育事業について</p>	

議事の概要	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 子ども・子育て支援新制度における利用希望把握調査の集計結果（速報版）について(2) 教育（幼稚園）・保育施設について(3) 地域子ども・子育て支援事業について(4) 子ども・子育て支援事業計画の記載事項について(5) 国での審議状況について(6) その他 <p>3 閉 会</p>
-------	---

第2回 中央区子ども・子育て会議 会議録（要旨）

平成26年1月28日（火）

午後6時半～8時45分

中央区役所8階第一会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 子ども・子育て支援新制度における利用希望把握調査の集計結果（速報版）について

事務局より資料1について説明。

鈴木(英)委員 病気の孫を預かることがあり、病児保育の必要性を感じるが、集計結果からはその辺りがうかがえない。現役で子育てされている方の意見を伺いたい。

鹿子木委員 年に何回か利用しており、大変助かっている。家庭によって事情は様々だと思うが、病児保育も病後児保育も大変ありがたい。病気に対しては素人なのでプロに看てもらえることで安心できる。

大石委員 子どもが小さいとき、2歳くらいまでは預けたりしていたが、開始時刻と終了時刻が少し短いと感じ、時間の関係で事業を利用できず、母に対応をお願いすることもあった。

高橋委員 調査結果を見ると利用手続きの煩雑さ等に関する回答が多くあげられている。どういう手続きで、いつまでに何をしたらいいのかわからない中で、病気は急になるので、最初の1回の突破口が開けない。周りでもそういう話を聞く。以前子どもを通わせていた保育園では病後児保育室があり、他の人もよく使っていたし顔見知りの先生だったので、信頼して使えた。そういう駆け込み寺のような感じで、本当はニーズがあると思っている。

鹿子木委員 あらかじめ登録してカードをもらってないと使えない。

高橋委員 突然利用したいと思っても難しい。

鈴木(英)委員 熱があると保育園から呼び出されて、それが何日も、何回も続いたりすると仕事を続けるのが難しくなってきた大変である。職場の理解というものが必要だと思う。

箱守委員 フルで働いている母親にとっては、お子さんが病気で登園禁止となってもその期間全部お休みするわけにはいかない。そういう時に病児保育から引き取って家で看たりしている。区でもファミリー・サポート・センター事業で病児を預かれるよう、研修など仕組みづくりに取り組んでいただきたい。

佐久間委員 中央区外で、保育園併設型で病後児、病児保育に取り組んでいたことがあったが、病気の感染に注意が必要で何人も預かることができないということもあり、閉じた経緯があった。ニーズはあるけれど、運営も難しい部分がある。

山本職務代理 私も登録はしたが、1回目のハードルが高く、面倒に感じ利用しなかった。
ところで、調査票の回収率についてだが、各地域に均等に配布したとのことだが小学生児童は月島地域が少し多くなっているのは何故か。

事務局（子育て支援課長） 調査票の発送数は3地域均等であったが、単純に地域の意識の大きさの違いか、実際に得た結果だと理解している。

高橋委員 月島地域の学童クラブのニーズに対する意識の差が回収率にでていたのではないかと。

山本職務代理 今後ニーズ量を算出するにあたり、パート、アルバイトでも長い時間働いている人がどれくらいいるかなど、就労時間を丁寧にみていく必要がある。

事務局（子育て支援課長） きちんと対応していきたい。

(2) 教育（幼稚園）・保育施設について

事務局より資料2について説明。

鹿子木委員 保育施設の見学・視察をすることは可能か。こども園や、自分の子どもが通っていない施設はイメージできない。

事務局（子育て支援課長） 希望があれば個別に対応していきたい。

佐久間委員 区立幼稚園への入所数が平成21、22、23年と増加しているが、どのような理由なのか。

事務局（学務課長） 月島地域の大規模開発など、区内でマンションが増えてきたことが大きな要因である。グラフの平成25年度と21年度を比較すると約16%ほど伸びていて、クラスの数もこの5年で8学級ほど増えている。さらに、10年前と比べると、月島地域だけでなく全体的な人数の伸びの中で、幼稚園の受け入れ人数も1,000人に満たなかったのが、約56パーセント増えていて、クラスについても20学級ほど増えてきている状況が見られる。

鹿子木委員 平成25年の4月時点で待機児童193とあるが、現状はどうなっているのか。平成26年4月に待機児童数0を目論んでいると思うが、達成できそうな状況なのか。

事務局（子育て支援課長） 待機児童については直近12月の段階で312人となっている。1番多いのが0歳児で、この時期から申し込んで4月に1歳児として入所を見据えていて、この部分が待機になっている。平成26年の4月に待機児童の多い1歳児からのクラス編成とする6園が開園されることで、待機児童の解消を見込んでいる。

高橋委員 幼稚園・保育所等の受け入れ時間（延長を含む保育・教育時間のキャパ）が中央区全体でどのくらいあるのかを示した資料を提示していただけるか。

事務局（子育て支援課長） 各園の一覧というかたちで提供する。

(3) 地域子ども・子育て支援事業について

各担当課長より資料3の各事業について説明。

- 鹿子木委員 病児保育について、利用したくても利用できなかったケースはどのくらいあるのか。
- 事務局（子ども家庭支援センター所長） 突然の申し込みキャンセルで、空きと利用希望がうまく合わない状況がある。例えば前日お子さんの具合が悪くて、でも朝起きたら治っていて保育園に行けるような場合、祖父母の方の都合がついた、急に父親が休むことができるようになった、など。キャンセルの連絡自体も、なかなか頂けないという事情もある。実態として、その辺りが非常に把握しづらく正確な数は把握できていない。
- 鹿子木委員 利用ニーズはインフルエンザ等が流行る時期など一定の時期に集中すると思う。そういう時期に対応できる体制が整えられるのが理想だと思うので、利用したいけど利用できなかった件数の把握を含めてお願いしたい。
- 鈴木(英)委員 こんにちは赤ちゃん事業で訪問率が平成22年度に増えているのは何か理由があるのか。また、訪問に民生委員もついて行って、地域で子育てを応援するようなPRもできると思っているが、考えは。
- 事務局（健康推進課長） 平成19、20、21年度と訪問率が伸びてきて、その過程で最終的に訪問連絡ハガキのやりとりでニーズがあるところには100%近く訪問できるようになった。22年度以降は高い率で訪問できている。虐待の連絡をもらったり、育児不安が強くて支援が必要になった場合など、民生委員の方も含めて各関係部署との連携をさらに考えていく。
- 大石委員 延長保育の利用料は月極に比べてスポット利用は割高になるが、今後考慮しなくてはならないのでは。皆月極に入りたがるとスポットが使いづらくなるという悪循環に陥っている気もする。
- 事務局（子育て支援課長） 月極利用については所得税額に応じて利用料が定められているが、スポット利用は1回400円と決まっており、逆転することはあると思う。国でも事業の枠組みが法定されたこともあり、今後検討していきたい。
- 山本職務代理 出生数と訪問連絡ハガキ受理件数を比べてみると、ハガキ受理件数のほうがだいぶ少ない。この出生数と件数の差は何か。
- 事務局（健康推進課長） 出生数に対して連絡訪問ハガキの返送率は平成24年度が86.1%、23年度が87.5%となっている。返送していただいた方はほぼ100%お伺いしている。返送のない方については、出生届から把握して、連絡を取る対応をしている。
- 山本職務代理 乳児期の0歳時の虐待防止がこの事業が始まった趣旨で、できるだけ早く外からのアプローチが入るように、との目的がある。他に保健師が訪問するなど、ネットワークのようなものはあるのか。
- 事務局（健康推進課長） この事業だけではなく全体で3カ月、1歳6カ月、3歳と（健診時に）節目節目で全数把握をするようにしている。訪問できなかった方には次のステップ、次の

ステップというのが設けられている。

- 山本職務代理 86.1%の方が返送してくれているということだが、残り 15%弱の返信のない方がどういう状態か、どのくらいフォローができているか、訪問できていない方たちの分析が必要では。
- 事務局（健康推進課長） 住民票が無くなっているのが最終的には把握できない可能性はあるが、この 10 何%がそのまま未把握ということではない。今回は訪問事業の実績としての数字を出したが、未把握の数字も、検討会を毎月毎月行い、0 を目指すということである。
- 高橋委員 月島地域の学童クラブで平成 25 年度に定員割れをしながら、待機があるということとは重要と供給のバランスがとれていないということか。
- 事務局（子ども家庭支援センター所長） 平成 24 年の 12 月 1 日に晴海児童館をオープンし、80 人という定員設定をしたが実際 25 年の 4 月には 20 名程度の応募しかなく、その定員割れが大きく響いている。しかしそれ以外の地域の学童では定員通りや待機が出ている状況である。
- 高橋委員 晴海児童館は不便なところに立地していると聞く。
- 事務局 晴海地域にはかねてより児童館の設置の要望を受けていたが、なかなか適地が見つからなかった。最終的に確保できたのが、土地区画整理事業の中で東京都から譲り受けることが出来た現在の場所となっている。
- 高橋委員 施設はきれいでとても評判がよいが、アクセスが不便。交通手段など何か方法はないか、という声は多い。

(4) 子ども・子育て支援事業計画の記載事項について

(5) 国での審議状況について

残り時間の都合により事務局より資料 4 と参考資料 8 についてまとめて説明。

質疑応答はなし

(6) その他

次回の日程は、3 月 27 日 18 時 30 分からとする。

3 閉 会

西郷会長から閉会の宣言を行う。